

学校が大好き

～幸福大国ブータンで見た子どもたちの笑顔～

朝は毎日assemblyの時間から始まります。



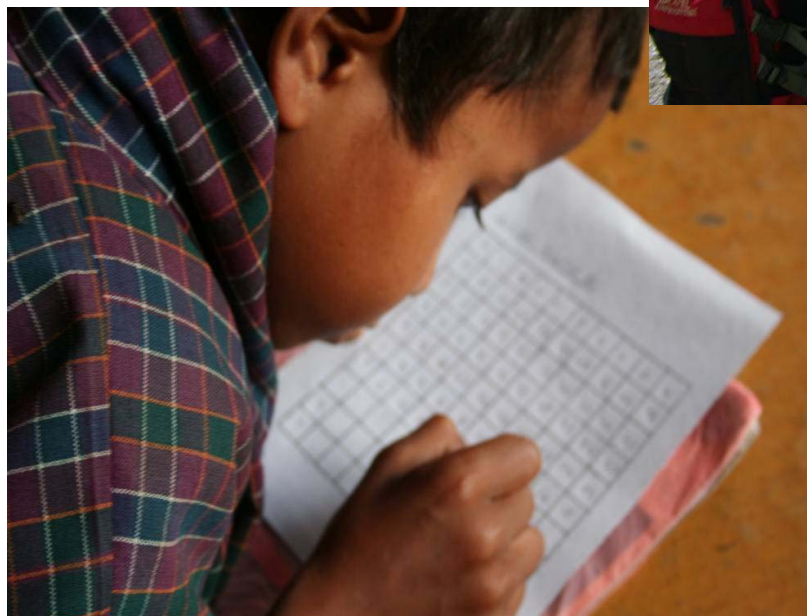
昔、日本にあった「寺子屋」のような教室
です。



大きな窓から光が射てきます。



PPクラス(5～6歳)の英語の時間



算数の時間
真剣に計算問題を解いています



この学校では給食があります。メニューはいつも同じです。



子どもたちは毎日徒歩で通学します。中には片道1時間半かかる子もいます。
徒歩で通うことができない子のために寄宿舎も用意されています。
ブータンの就学率は昔に比べてずっと高くなりました。



親元を離れて学校生活を送る子にとって年上のお姉さんが親代わり。
チベット仏教の教えから学ぶ「思いやりの心」が学校社会にも生きています。



「学校が好き！！！」



「先生大好き！！！」

青年海外協力隊の授業(体育)にて

「もっともっとたくさんの
ことを学びたいな。」

グレードⅠ(7歳)のクラス





「卒業後はCollegeへ進みたい。将来の夢は先生になることなの。」

文房具はボロボロになるまで大切に使っていました。
教科書は何年も学校で使いまわします。

決して十分な環境ではないけれど、
先生がいて、仲間がいて、学校がある
—それが何より**幸せ**だと子どもたちの笑顔は語っていました。

学校へ行くということ、
それは「当たり前」のことではありません。

そのことに私たちはどのくらい気付いているのでしょうか。